

島根原子力発電所2号炉 審査資料	
資料番号	PLM-01-2
提出年月日	平成30年8月29日

島根原子力発電所2号炉

審査会合における指摘事項の回答

(共通事項)

平成30年8月29日

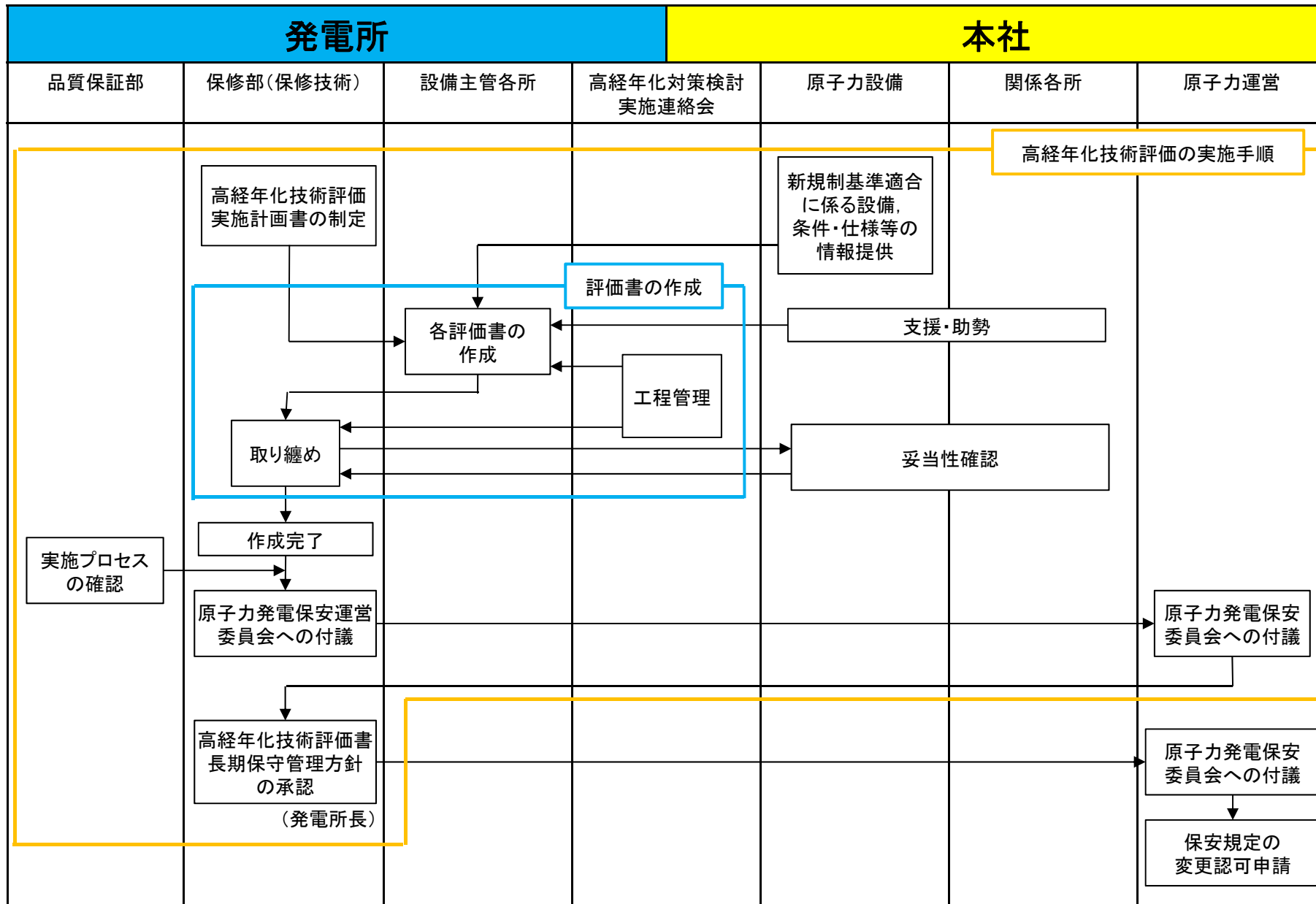
中国電力株式会社

Energia

島根原子力発電所2号炉 審査会合における指摘事項の回答一覧表

No.	指摘事項	回答
13-1 共通事項 (平成30年7月4日 第13回審査会合)	高経年化技術評価に係る全体業務についてフローを作成し説明すること。	P2
13-2 共通事項 (平成30年7月4日 第13回審査会合)	これまでのトラブル情報等の島根2号炉PLM評価への反映プロセスについて説明すること。	P3~P7

13-1 高経年化技術評価に係る全体業務フロー



◎国内外の新たな運転経験および最新知見の反映

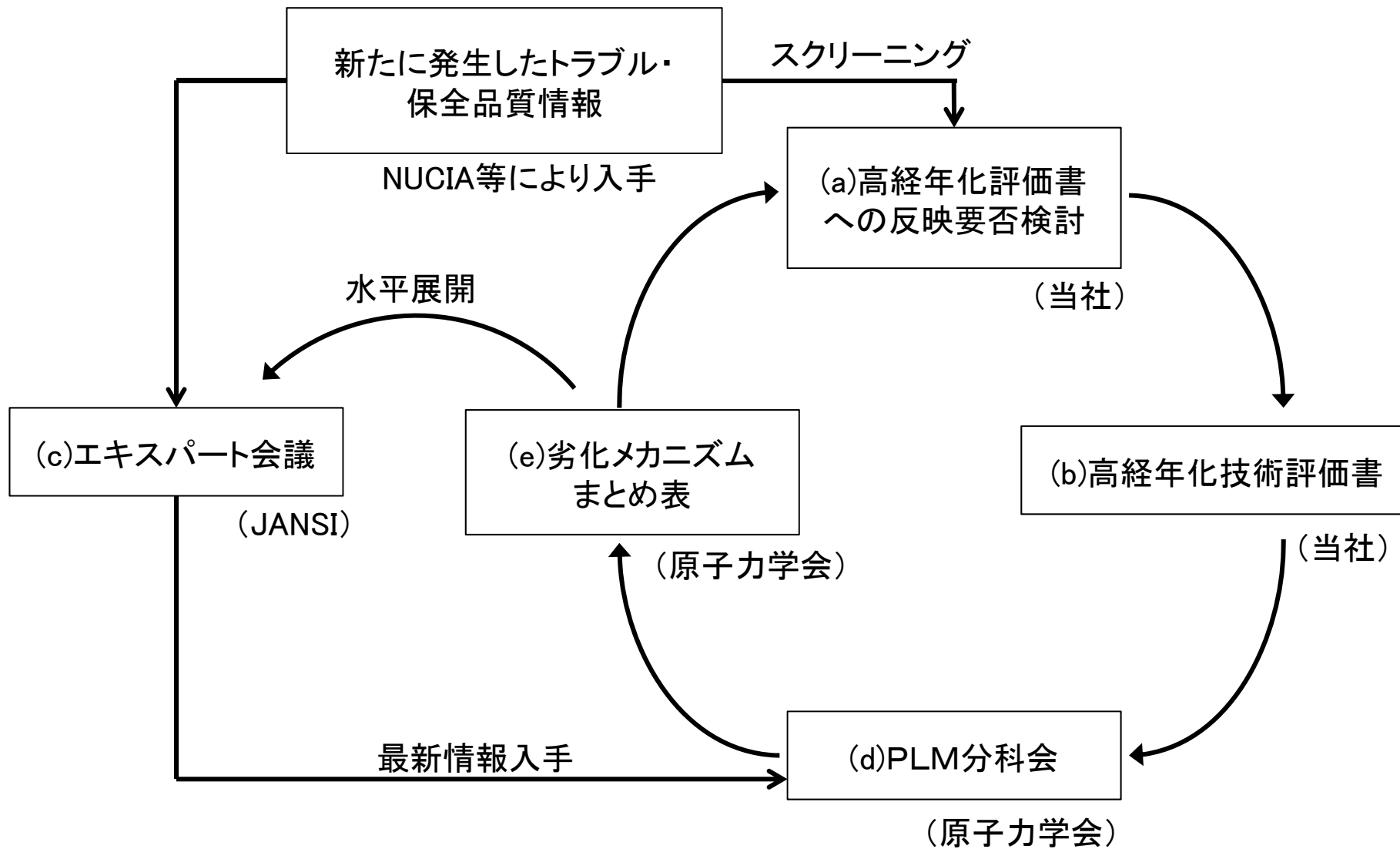
高経年化技術評価の実施にあたっては、最新の劣化メカニズムまとめ表を使用し、至近の技術評価を参考にするとともに、2011年4月～2016年3月の国内外の運転経験、最新知見について、高経年化技術評価への影響を整理し、技術評価への反映要否を判断している。また、2016年4月以降の知見についても、適時反映要否の判断を行っている。

◎高経年化技術評価に反映したトラブル情報等

- ①～2012.10.31のトラブル情報等(関西電力美浜2号炉40年目高経年化技術評価時までの知見)劣化メカニズムまとめ表に整理されており、このまとめ表を活用
- ②2011.4.1～2016.3.31のトラブル情報等
島根原子力発電所2号炉高経年化技術評価のためにスクリーニングを実施。
- ③2016.4.1以降のトラブル情報等
適時反映要否の判断を行う。



13-1 トラブル情報等のPLM評価への反映の流れ(2/5)



(a)高経年化技術評価書への反映要否検討

実施主体: 当社(各原子力事業者)

概要 : PLM実施主体が, トラブル・保全品質情報(NUCIA等による)に係る最新知見を集め, 劣化メカニズムまとめ表の知見に加えて高経年化対策上考慮すべき経年劣化事象を抽出する。

(b)高経年化技術評価書

実施主体: 当社(各原子力事業者)

概要 : PLM実施主体が, 上記で検討した結果を踏まえ, また現場の最新保全情報を集めて, 評価対象プラントのPLM評価書を作成する。

(c)エキスパート会議

実施主体: 原子力安全推進協会(JANSI), 全原子力事業者

概要 : 電力各社の現場技術者(原子炉, タービン, 電気, 計装, 土建の5分野の保全のエキスパート)が, 国内外のトラブル情報や各社の保全実績などを基にした不具合経験の共有, 劣化事象を整理する。

(d)PLM分科会

実施主体: 原子力学会

概要 : 新たに審査の終了したPLM評価書の知見とエキスパート会議からの情報を基にPLM基準(劣化メカニズムまとめ表)の改訂を実施する。

(e)劣化メカニズムまとめ表

概要 : これまでのPLM評価書等の知見を包括的に取り纏めたもの。

(1) 知見の収集

日常的に実施している最新知見，運転経験に対する活動を踏まえ，情報の収集を行う。

(2) 知見抽出・要否検討

収集した情報から経年劣化関連の知見を抽出してリスト化する。

経年劣化関連として抽出した知見について，新たに評価内容への反映する必要があるかを検討し，下表に示す観点で反映済または反映不要となるものを判断する。

表 経年劣化関連の知見整理

分類	
反映済	定量評価等の実施時に考慮している
	予防処置，不適合管理および是正処置により対応している
	劣化メカニズムまとめ表を用いて経年劣化事象を抽出している
	規格基準等の改正内容を反映したQMS手順書を使用している
反映不要	規格基準に取り込まれていない経年劣化事象の研究成果等
	評価対象設備に生じるおそれのない経年劣化事象

(3) 評価書への反映

検討の結果，新たに反映が必要として抽出された知見について，評価書に反映する。

検討の結果，2016年4月以降に新たに反映すべき運転経験が1件確認された。

○島根原子力発電所2号機中央制御室空調換気系ダクトの腐食事象について

NUCIA登録(更新)状況:平成30年2月5日「最終」報告

上記の事象については，対策品への取替および保全の追加を評価書に反映した。

13-2 トラブル情報等のPLM評価への反映の流れ(5/5)

<高経年化技術評価にあたってのスクリーニング作業>

